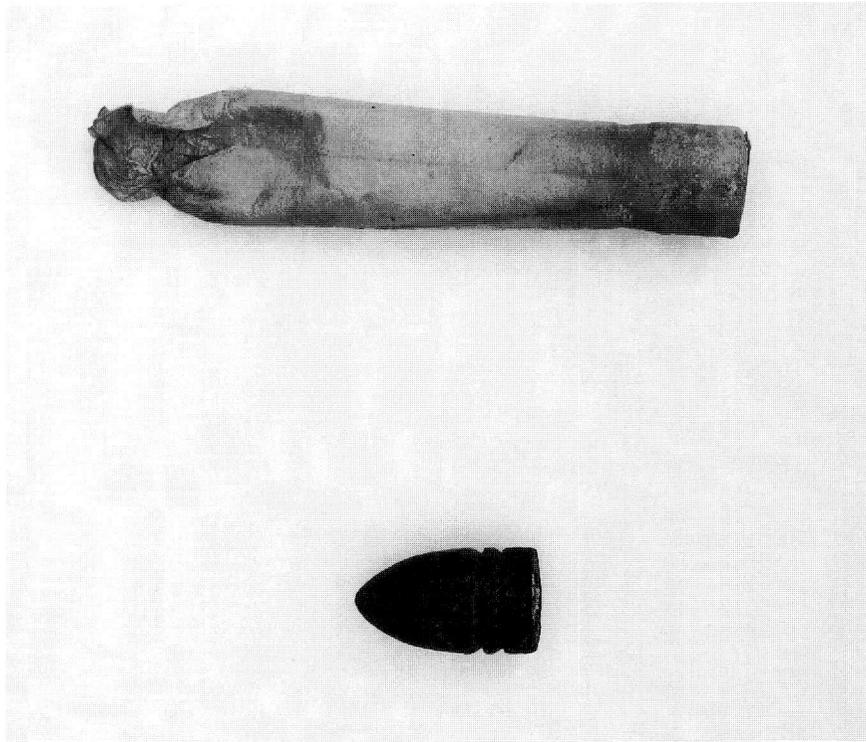


沼津市

明治史料館通信

2005.10.25 (季刊 年4回発行) Vol. 21 No. 3 通巻第83号



沼津兵学校で使用されたと伝えられる銃弾・薬包

(大野寛良氏所蔵・当館保管)

薬包 材質：和紙 全長：90mm

銃弾 材質：鉛 全長：24mm 直径：14mm

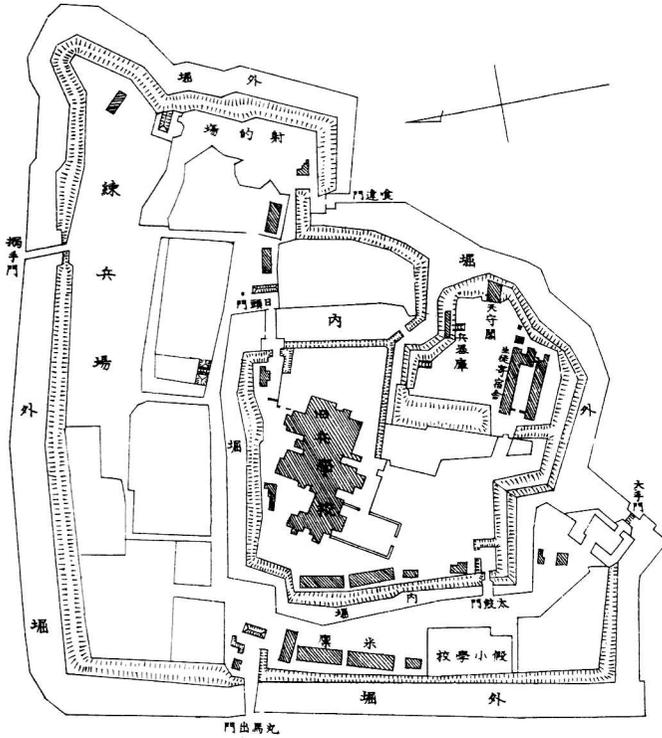
鉄砲町について

住居表示によって消えた地名は数多くある。沼津市の事例のひとつとして、昭和五十五年の住居表示によって消えた「鉄砲町」という地名があげられる。現在の大手町二丁目の一部、市立図書館の西側の国道四一四号線を挟んで向かい側のブロックが概ね旧鉄砲町の地域である。

「鉄砲町」や「鉄砲(鉄炮)」がつく地名は全国各地にあり、その多くは、鉄砲鍛冶が住んでいたことや、鉄砲組が置かれたことなど、由来を江戸時代かそれ以前に求める例が多いようである。沼津の鉄砲町の由来はどのようなものであろうか。直接には、明治五年以後は「鉄砲田」と称したことに由来する。ここでは、明治の終わりから大正の頃には、時々弾丸の破片が発見されたそうだ。

旧鉄砲町(鉄砲田)の地域は、江戸時代、万延元年(一八六〇)の沼津城絵図では、沼津城東側の

ぬまづ近代史点描 63



沼津旧城旧兵学校図 (『同方会誌』38号より)

堀の位置となる。万延元年に幕府に提出した沼津城絵図では堀として描かれているが、文久三年(一八六三)一〇月作成の「一分一間積沼津城絵図」では堀が改修されている様子が見えることから、この堀が文久元年(一八六一)から同三年の間に改修されたものと推測される。当館所蔵の万延元年以降作成と推測される「沼津城絵図」

には、城の東北の隅に「砲術稽古所」が描かれており、ここで鉄砲の稽古をしたものと思われる。(近世の絵図については『沼津市史別編 絵図集』等を参照したい) 慶応四年(一八六七)、沼津藩が菊間(現千葉県)に転封となり、旧沼津城には沼津兵学校が設立された。兵学校では、資業生の学科に「銃砲打方」があり、銃の組立

てや的打などの訓練も行われた。その様子は兵学校資業生であった石橋絢彦が「沼津兵学校沿革」で詳しく記している。それによると、まず「蠟燭打」という訓練が行われた。「蠟燭打」とは、蠟燭を燃やし、蠟燭の炎に鉄砲の銃口を向け、「三四尺」(約〇・九〜一・二メートル)の距離から、空砲を打ち、

兵学校で使用されたと伝えられる銃弾(表紙写真)から、幕末に多用されたミニエー銃と呼ばれる先込め式の雷管銃であると推測される。また、「銃丸稽古」として、「鉛を溶解して型を持って銘々弾丸を鋳る」ことも行われた。

そのガスで炎を吹き消すことで照準を合わせるようにする、実弾射撃の準備となる訓練である。図の左上、城の東北隅の建物が「蠟燭打」の稽古場である。また、図の上部には「射的場」がある。ここは万延元年以前は堀であった所で、城北側(図左側)の練兵場より「一丈」(約三メートル)低くなっており、さらに蠟燭打の稽古場との間に高く土堤を築いて、外れた弾丸が遠くへ飛ぶのを防いでいた。土堤の下に別に「架」(的を置くための土堤)を設置し、その前に「紙製の五尺計りの的」を立て、南方から北向きに実弾射撃の訓練を行った。「立射、膝台、伏射等数種の打ち方を稽古した。

大正四年(一九一五)、沼津を訪れた石橋絢彦が旧射的場について、「菜圃と変り家も建てられたれど周囲の叢林は四十四年昔しの空壕の状を存し」と、また「昔の窪の地盤にて地盛りもせられずに残り居るを認めたり」と、記している。以上述べたように、沼津の旧鉄砲町の地域では、江戸時代には沼津藩の「砲術稽古所」、明治に入って沼津兵学校の「射的場」が設けられ、ともに鉄砲の訓練が行われた。これらに由来して「鉄砲田」となり、昭和十五年(一九四〇)の耕地整理によって「鉄砲町」となったものである。

この時、訓練で使用された銃は、

角川書店

〈参考文献〉石橋絢彦「沼津兵学校沿革」(『同方会誌』)、辻真澄著『沼津・三島・清水町 町名の由来』、『角川日本地名大辞典』

シリーズ
沼津兵学校とその人材

14

沼津兵学校出身のご長寿たち

今年(昭和六〇年)は戦前・戦中の記憶を持つ日本人は確実にゼロに近づきつつある。文字に記録されなかつた歴史を残すためには、生き証人の存在は大切であり、限られた時間との勝負となる。

約八〇年前、昭和の初め(正確には昭和三年)には、戊辰戦争(幕府瓦解・明治維新)の体験者の戦後六〇年があつた。出版界には維新ブームが起つた。沼津兵学校

に関しては、少し後のことになるが、米山梅吉『幕末西洋文化と沼津兵学校』(昭和九年刊)という著作が生まれた。ただし、同書は当事者の聞き書きではない。むしろ、出身者・関係者自身による体験談



昭和16年88歳の塩野谷景光
(塩野谷八重子氏提供)

等は、すでに大正期に出されていた(石橋絢彦「沼津兵学校沿革」や江原素六の自伝・伝記等)。

昭和一四年(一九三九)には沼津市で沼津兵学校創立七十周年記念祭が開催されたが、招待され集した多くは、すでに本人ではなく息子たちであつた。

しかし、戊辰から七〇年が過ぎても、出身者が死に絶えてしまつていたわけではない。記念講演の講師となり、明治初年の思い出話をしたのは附属小学校生徒の生き残り工学博士真野文二だつた。また、資業生出身の実業家成瀬隆蔵も講演を依頼されたようであるが、八五歳の成瀬は、「何せ身体がすっかり弱つてゐるんで心ならずも失礼したのです」と、新聞のインタビューに答えている。成瀬同様、招待されたが不参だつた者には、栗山勝三(資業生、安政元年八月七日生まれ、昭和一五年一〇月一六日没、八八歳)・田辺朔郎(附属

小学生、昭和一九年没・平山順(同前、一八年没)らがいた。

実は、記念祭の主催者側(沼津市等)が把握しておらず、招待することができなかった存命者(他にもいた。たとえば、教授では年少者だつた熊谷直孝である。彼は昭和一七年(一九四二)に九三歳の高齢で亡くなつている。

資業生の中では第七期の塩野谷景光が最も長寿だつたのではないだろうか。安政元年(一八五四)

六月一六日の生まれで、昭和一八年九月一八日、九〇歳で亡くなつている。ちなみに、現時点で判明しているところでは、資業生全二一八名のうち、没年が明治二〇年以前一六名、明治四五年以前五三名、大正一五年以前四名、昭和一八年以前一三名、没年不明者九五名という内訳となる。昭和期まで健在だつたのはごく少数である。

塩野谷は、旧名を近三郎といい、幕臣榎本長博の三男として江戸で生まれた。五歳年長の実兄榎本長裕は、開成所で洋算を学び沼津兵学校教授(後附属小学校頭取)になつた人物。妹の花子は、後に資

業生の同期宮川保全の妻となつてゐる。景光は、明治三年(一八七〇)一〇月、沼津において塩野谷家の養子となつた。養父塩野谷右満弟(明治三年没)は、沼津兵学校三等教授高島茂徳(秋帆の養嗣子)の息子、養祖父塩野谷久太郎景高(明治二年没)は、開成所教授手伝並をつとめた洋学者だつた。景光は洋学一族に属したといえる。

長生きした景光であるが、残念ながら古い資料はほとんど残らず、沼津兵学校時代はもちろん、内務省地理寮などに勤務した彼自身の履歴も含め、その後の長い人生の足跡については詳らかでない。ご子孫の間には、断髪したのが早かつたこと、いち早く自転車に乗つたことなど、エピソードがわずかに伝わるのみである。

なお、真野文二は、昭和二十一年(一九四六)に亡くなつており、明治維新と敗戦という近代日本の大変革をとくに体験した稀有な存在となつた。幕臣として、日本人として、二度の敗北を味わつた、その感慨はいかなるものだつたらうか。

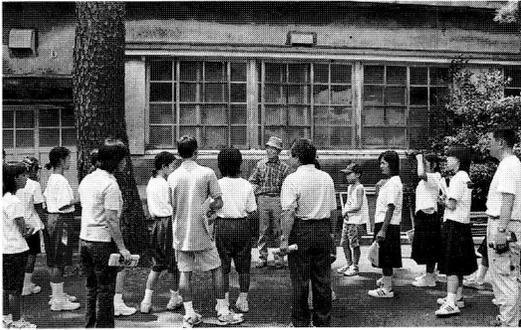
(樋口雄彦)

お知らせ欄

◎企画展の終了

7月1日から9月29日まで開催していた企画展「1931-1945 沼津と戦争」は無事終了しました。戦後六十年という事で関心も高かったようです。ご観覧頂いた方々、ご協力頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

また、企画展に合わせ9月3日に開催した歴史講演会「沼津と戦争」地域から見る戦争」にも95名の受講者がありました。多数の受講ありがとうございます。

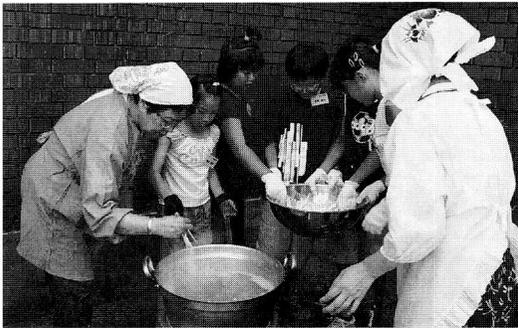


中学生戦争史跡めぐり
中央が戦災時学園の卒業生・桜田氏

◎夏休み企画の結果

〈平和を考える戦争史跡めぐり〉

戦後六十年という事で、昨年度までの「親子」を1回開催から、「親子」を4回、「中学生」を4回、開催しました。7月26日の「親子」は荒天のため中止しましたが、「親子」が3回合計60名、「中学生」が4回合計69名の参加がありました。8月5日の「中学生」では、我入道にあつた「戦災児学園」(戦後東京都が設置した)の卒業生の桜田茂磨さんが、当時の思い出をお話してくださいました。



戦時中の暮らしを体験しよう
すいとん作り

〈小学生歴史教室〉

「戦時中の暮らしを体験しよう」7月28日実施 参加者 31名
中野忠さんに戦時中の暮らしについてお話ししていただき、戦時中の食事としてすいとんを作って、食べてみました。

金岡婦人学級有志11名にボランティアとして協力していただきました。ありがとうございます。

◎博物館実習の実施

9月1日〜11日の日程で、学芸員資格の取得を目指す学生4名が実習を行いました。

◎企画展の予告

本年度第二回企画展として、「沼津の絵図」を開催します。本展は先頃刊行された『沼津市史別編 絵図集』の刊行を記念して、同書に収録された絵図・地図の中から、主に江戸時代の城・宿・村の絵図の実物を展示します。また、『絵図集』刊行後に合併して沼津市になった旧戸田村につきましては、井田村1点・戸田村2点を会期を通して展示します。

期間

前期 12月1日(木)〜1月15日(日)

後期 1月17日(火)〜2月26日(日)

会場 当館3階北側展示室
※会期中、江原素六コーナーは縮小します。

◎歴史講演会の開催

企画展に関連しまして、村絵図の見かたや面白さについてお話していただきます。

講師 久保田富氏(沼津市史編纂専門委員〈近世〉)

演題 「絵図の見かた―村絵図の世界―」

日時 平成18年1月14日(土)
午後2時〜4時

会場 当館2階講座室

定員 100名、参加費無料
申込 12月1日(木)9時から

当館まで電話または直接
◎年末年始の休館
12月28日(水)〜1月3日(火)は、年末年始の休館日です

沼津市明治史料館通信 第83号

編集 沼津市明治史料館
発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二-一
電話 〇五五-九二二-三三三三五
FAX 〇五五-九二二-三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm